

発行所
日本赤十字
新労組連合会
(略称「日赤新労」)
東京都港区西新橋3-14-5
Tel・東京434-7080
発行責任者
川島亮介

日赤新労ニュース

綱領
1. われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて、われわれの権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
2. われわれは、常に暴力と独裁を排し、自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
3. われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによつて、その人道的任務の達成に寄与する。



熱海八丁園 拡大中央委員会会場

12月3日 拡大中央委員会 熱海八丁園

報告

本年度ベースアップについて、前後七回の交渉の結果「十月実施」という一発回答に達したため、如何にこれに対処するかを討議のため、役員、中央委員、並びに単組代表者を招集して拡大中央委員会を開催した。

一般経過報告・川島書記長
ベアについての交渉内容、要望書署名提出、施設長回答反映等について報告し、回答率の低い点について一層の協力を要請した。

調査報告・藤井執行委員
年令並びに勤務年数に基づく給与状況並びに宿日直調査表を作成したことを述べ、今後共行本部の調査報告に積極的に対応するよう協力を求めた。

組織報告・服部執行委員
現在二つの施設に対して、オルグを進行中である。本部だけの情報では少々無理の点があるが、従来から叫ばれている中央委員即オルグ要員の統制に沿って努力したい。

教宣報告・竹田執行委員
本年九月に行つた学習会の結果及び反省について述べ、今後は中堅層の組合員がより多く出席されるよう希望する。

本部報告及び此れに対する質疑応答
ベースアップについて
本部報告及び此れに対する質疑応答

報告に対する質疑応答
(吉原) 各部に對し今後のスケジュールと方針、書記長には、本部に對する各単組報告事項の遅れ或は未提出事項に對する処置に對し、如何なる考えであるか。

答を終り、愈々本会議の核心であるベア実施に關する討議に入る。
(吉原) 十二月一日本社の行つた所謂一発回答である十月実施ということ、これは昨年の十一月より一歩前進したということからみて、寧ろ当然であり、前進とは考えられない。われわれ新労と云えども組合である。従つて十月実施ということとは論外である。各施設の苦しさはわかるが生計費並びに物価急上昇の現在かかる回答を一発回答などと呼んで本社が平然としているならば社会的責任と云わざるを得ない。



本社団交

われわれは常に正しい労働の姿勢を保ち乍ら、誠意と道徳を尽くしきき入れなければならない。前七回の交渉に渡つて交渉を続けてきたが、本社は財政的理由を盾に、後まで閉鎖し争わなければならぬ物価高に苦しむ、われわれ労働者

正しい姿勢を作りたいたのだ。
(久保田) 執行部を信頼し、相手のあることだし、やむを得ない場合、存心でも仕方あるまい。
(村岸) よく考えてみると、昨年を一月上廻つたことは、本社としても少しは誠意を示したものである。従つて一月月ではあつたが前進したことは新労の努力の賜と思ふ。
(大坪) 各施設長の話を聞いてみると、必ずしも悲感論にとられる必要はないと思ふ。この辺の所をよく考えて、もう一段の努力をすべきではないか。従つて十月実施は考えられない。
(小林) 独算例を採り乍ら、内容のよい病院は悪い病院に足を引張られて、私の病院もピンチには違いない。
期末手当について
一方的に本社が出す通達は、事実上決定権を握つており、重大な力となるので、この通達について何等かの手を打つべきであるという見解に達した。又今回の二九割プラス一律二、五〇〇円については各単組それぞれの実情により、有利に獲得するよう努力するよう申し合はされた。

七回に及ぶベア交渉も 本社の態度依然頑迷

